



セノッピー presents 第23回 オリックス・バファローズCUP2026少年少女軟式野球 決勝トーナメント大会ルール

1、大会参加資格

参加出来る選手は、事前に参加選手として登録された3・4・5・6年生(ただし、3年生を登録する場合は、各チームの責任において出場させるものとする)に限られる。

1チーム選手登録は、10名以上20名まで。

2、この大会は該当年度の「公認野球規則」「(公財)全日本軟式野球連盟競技者必携／学童野球に関する事項」

及び下記の細則により試合を行なう。グラウンド特別ルールがあるときは、試合開始前に審判員からチームに説明する。

ア、投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1日70球までとする。

試合中に70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。

イ、試合は原則6回戦とするが、1時間25分を過ぎて新しいイニングに入らない(時間制を採用する)。

規定時間内に規定回数を終了または規定時間が経過して同点の場合は、特別延長戦(タイブレーク方式)を最大2イニングを行う。尚も同点の場合は、抽選により勝敗を決する。

ウ、特別延長戦(タイブレーク方式)の方法は、継続打順で一死走者満塁の状態から行う。

打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。

この場合の走者は、打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。この場合の代打および代走は認められる。

エ、試合は得点差によるコールドゲームを採用する(3回以降10点差、5回以降7点差を採用)。

オ、降雨その他の事由により試合続行が不可能な場合、4回終了をもって試合成立とし、最終均等回の総得点をもって勝敗を決する。

カ、指名打者制度(DH 制)を使用することができる。ただし、二刀流選手「大谷ルール」を採用しない。※2026年競技者必携「指名打者の取り扱いについて」5.11(a)(b)に記載。

キ、決勝戦は、次によるものとする。

a、試合は原則6回戦とするが、1時間30分を過ぎて新しいイニングに入らない(時間制を採用する)。

規定回数を終了し、同点の場合、特別延長戦(2、ウ、)により勝敗を決するまで行う。

b、コールドゲームは採用しない。

ク、上記取り決めに関わらず、当日の球場使用許可時間に制限がある場合等は、大会本部又は担当役員の判断で試合回数等の変更をすることができる。

ケ、シートノックは、決勝戦のみ行う(各チーム5分間)。

3、ベンチは、組み合わせの若い番号を一塁側とする。

4、選手全員の集合は試合予定時間1時間前とする。現地に到着したチーム代表者は本部へその旨を報告し、本部で用意した打順表4通(準決勝戦・決勝戦は5通)を受け取るものとする。

5、前の試合が予定時間よりも早く終了したときは、時間を繰り上げて次の試合を開始することがある。

6、試合を行うチームの監督と主将は、当日出場予定の選手全員の氏名(フルネーム、ふりがな入り)を記載した打順表4通を、試合開始予定時刻30分前に本部へ提出すること。その際、攻守の決定を行う。

7、小雨の場合でも、日程の都合上または球場が使用可能な状態である場合は試合を行う。

その際、チームは異議を申し出ることは出来ない。

- 8、試合中ダッグアウトに入れる人員は、チーム代表者1名、マネージャー1名、登録されたユニホーム着用の監督、コーチ(2名以内)の合計5名と、選手登録されたユニホーム着用の選手9名以上20名以内とする。背番号は、監督30番、コーチ29番、28番、主将を10番とし、選手は0番から99番とする。

また、監督・コーチと見分けるため、チーム代表者、マネージャー、給水補助員のユニホーム(ユニホームパンツのみを含め、短パン)の着用は認めない。

- 9、大会期間中の追加選手登録または変更(背番号変更含む)は認めない。

- 10、監督・コーチ・選手が試合に臨むときは、必ず統一したチームのユニホームを着用すること。当該違反者は、その試合に出場できない。(ベンチ入りもできない)ただし、合同チームは特別規約として所属チームのユニホーム一式の着用を認めるが、背番号の重複はみとめない。

- 11、選手のスパイクシューズは、金属製金具のついたスパイクは使用することはできない。

- 12、サングラスに関しては、全軟連規程に基づき使用を認める。(試合開始、試合終了の挨拶時はサングラスを外すこと)

- 13、投手は、変化球を投ずることを固く禁止する。万一変化球を投げたときはペナルティを課す。(※補足1)

- 14、バットは、全軟連公認以外の物の使用を禁ずる。(J.S.B.Bの記号あり) (※補足2)

- 15、大会使用球(ナガセケンコー株式会社製 J号球)は、主催者で用意する。

試合中場外に出た場合は、攻撃側で即座に探索する。

- 16、選手の不正登録など不祥事があった場合は没収試合として処理しチームは直ちに失格とする。

- 17、打者、走者、ベースコーチ、次打者は必ずヘルメット(両側イヤフラップ付)を着用すること。(最低7個用意)

- 18、捕手は、必ず SG マーク付き公認マスク(スロートガード付)、プロテクター、レガーズ、捕手用ヘルメット、ファールカップを着用すること。ファールカップを着用していない捕手は、試合への出場を認めない。

また、攻守交替時の準備投球を受ける捕手も、SG マーク付き公認マスク(スロートガード付)、プロテクター、レガーズ、捕手用ヘルメットを着用すること。(試合開始前、試合中のブルペン投球時を含む)

- 19、監督・コーチは次の場合を除きベンチから出てはいけない。

ア、選手交代又は抗議のためにタイムを求め、そのタイムが審判員に認められた場合。

イ、審判員から招致を受けた場合。

なお、試合中の抗議は監督及び当該プレーヤーのどちらか1名に限る。

- 20、グラウンドで発生した負傷は、各チームで応急処置をする他、主催者は一切その責を負わない。

参加チームは、チーム単位で傷害保険に必ず加入するものとする。

- 21、チームのゴミは収集し各自が必ず持ち帰ること。グラウンド及び球場周辺を汚さないこと。

- 22、代表者はチームの引率その他すべてのことについて責任を持ち、十分な注意を払うこと。

主催者はその責任を持たない。

- 23、雨天の際の可否判断は原則当日の午前7時00分に決定する。それ以前の問合わせには応じない。

万一会場まで遠距離の場合は、途中まで移動しながら会場担当者まで電話すること。また、各チーム連絡担当者は、1名のみとする。

- 24、試合中、ダッグアウト(ベンチ)ではメガホン1個に限り使用を認める。

ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコン等)の使用を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。ただし、撮影等の行為があった場合は全ての電子機器の使用を禁止する。

- 25、応援時の鳴り物等は禁止とする。

- 26、熱中症予防の為、給水補助員2名をベンチ内に配置することを認める。指導者の給水補助員としてのベンチ入りを不可とする。その際は、本部指定の名札をかけ、試合への指示等を行わないものとする。

***補足1(ペナルティについて)**

審判員が変化球を故意に投じていると判断した時、

1回目、その投球に「ボール」を宣告し、当該チーム監督ならびに投手へ注意勧告。

2回目、投手交代(当該投手は、その試合投手以外のポジションで出場することがきる)。

***補足2(学童部バット使用制限)**

安全面を考慮し、学童部(小学生)では、一般用(中学生～大人)バットのうち、打球部にウレタン・スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用を 2025 年より禁止する。2023 発刊文書 366-3 号より抜粋